

国立市しょうがいしゃ計画策定に係る実態調査報告書

令和6年3月

国立市

目次

I 調査の概要および回答者の属性

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の設計
- (3) 回収結果
- (4) この報告書の留意点

2 回答者の属性

- (1) 続柄
- (2) 居住地域
- (3) 年齢
- (4) 性別
- (5) 職業
- (6) 居住年数
- (7) 住居形態
- (8) 同居家族の有無
- (9) しょうがいの状況

II 調査結果

- (1) しょうがい福祉サービスの利用状況
- (2) 福祉のサービスの利用について
- (3) あなたの暮らしている地域の生活環境
- (4) 幸福度について
- (5) 幸福度を考える際に重視したこと
- (6) 満足度について
- (7) 今後どのように暮らしたいか
- (8) 災害時の対策について
- (9) 現在の就労状況について
- (10) 就労日数・就労時間について
- (11) 働くために必要なことについて
- (12) 労働意欲について
- (13) 働いていない理由について

- (14) 通園・通学について
- (15) 通園・通学をするうえで困っていることについて
- (16) フルインクルーシブ教育を進めるために必要な事について
- (17) 参加した余暇活動や社会参加について
- (18) 余暇活動や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることについて
- (19) 地域で安心して暮らしていくために重要な事について
- (20) 生活環境について
- (21) 福祉関連の情報の入手方法について
- (22) 国立市から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることについて
- (23) 国立市以外から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることについて
- (24) 不当な差別を受けた経験について
- (25) どのような時に差別を受けたと感じるかについて
- (26) 差別に関する相談経験について
- (27) 相談場所について

III 調査票

I 調査の概要および回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、「国立市しょうがいしゃ計画」策定の基礎資料とするため、無作為に抽出された市民にアンケートを送付し、調査を行うものである。

(2) 調査の設計

- ①調査区域 国立市全域
- ②調査対象 国立市在住の満18歳以上の男女
- ③標本数 1,500人
- ④標本抽出方法 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- ⑤調査方法 郵送配布・郵送による回収
- ⑥調査期間 令和5年9月21日(木)～令和5年10月31日(火)
- ⑦調査実施機関 株式会社ケー・デー・シー

(3) 回収結果

- ①配布数 1,500部
- ②有効回収数 774件
- ③有効回収率 51.6%

(4) この報告書の留意点

- ① 図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- ② 回答の比率(%)は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つの回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ③ 選択肢の中から複数の回答を選んでもよい質問では、各質問文の末尾に「(複数選択可)」の文言を示した。これらの質問は、すべての選択肢の比率を合計すると通常100%を超える。
- ④ 文字数が多い一部の選択肢については、結果を説明する文章中で、かっこ内の記述を省いて簡略化して示した場合がある。なお、図表中では、簡略化せずすべての文字を示した。

2 回答者の属性

(1) 続柄

回答者の続柄は、「ご本人」が62.3%、「ご本人の家族」が32.2%、「家族以外の介助者・支援者」が3.7%となっている。

(2) 居住地域

回答者の居住地域は、「東」が15.4%で最も多く、次いで「富士見台1～2丁目」(13.4%)、「西」(13.2%)、「谷保」(13.2%)、「富士見台3～4丁目」(11.9%)、「北」(11.2%)、「中」(9.7%)、「泉」(6.2%)、「青柳」(3.7%)、「矢川・石田」(1.2%)の順となっている。

(3) 年齢

回答者の年齢は、「80歳代以上」が23.5%で最も多く、次いで「70歳代」(20.8%)、「60歳代」(12.8%)、「10歳代以下」(12.5%)、「50歳代」(11.2%)、「30歳代」(6.7%)、「20歳代」(6.3%)、「40歳代」(5.2%)の順となっている。

(4) 性別

回答者の性別は、「女性」が46.3%、「男性」が51.3%、「その他」が0.1%となっている。

(5) 職業

回答者の職業は、「無職」が53.9%で最も多く、次いで「会社員」(11.9%)、「その他」(10.9%)の順となっている。

(6) 居住年数

回答者の居住年数は、「30年以上」が46.1%で最も多く、次いで「10年以上～20年未満」(15.8%)、「20年以上～30年未満」(15.4%)の順となっている。

(7) 住居形態

回答者の住居形態は、「持ち家（戸建て）」が43.5%で最も多く、次いで「持ち家（分譲マンションなど集合住宅）」（15.5%）、「民間の賃貸住宅」（15.2%）の順となっている。

(8) 同居家族の有無

回答者の同居家族は、「いる」が74.4%で最も多く、次いで「いない」（22.0%）の順となっている。

(9) しょうがいの状況

回答者のしょうがいの状況は、「身体障害者手帳」が61.5%で最も多く、次いで「愛の手帳」（15.5%）、「難病がある」（12.8%）の順となっている。

II 調査結果

(1) しょうがい福祉サービスの利用状況

しょうがい福祉のサービスの利用状況は、「利用していない」（49.6%）が5割で、4割超の「利用している」（42.9%）より6.7ポイント高い。

年代別でみると、「利用していない」は、70歳代（62.1%）が6割超で最も高く、60歳代（60.6%）がほぼ6割、80歳代以上（52.2%）が5割超で続いている。

性別でみると、「利用していない」は、男性（50.1%）、女性（49.7%）ともに5割で、男女間でほとんど差はみられない。

(2) 福祉のサービスの利用について

(2) - 1 利用しているしょうがい福祉のサービスについて

回答者の利用しているしょうがい福祉のサービスは、「福祉タクシー券事業」が24.9%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」（14.9%）、「計画相談支援」（12.7%）の順となっている。

(2) - 2 今後利用したいしょうがい福祉のサービス

回答者の今後利用したいしょうがい福祉のサービスは、「福祉タクシー券事業」が27.2%で最も多く、次いで「相談支援事業」（18.0%）、「生活介護」（17.6%）の順となっている。

(3) あなたの暮らしている地域の生活環境

(3) - 1 医療機関について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は60.9%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は7.5ポイント下回っている。

(3) - 2 日常の買い物について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は22.6%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は8.1ポイント上回っている。

※設問の文言に違いがございますので、各調査を参照する際はご注意ください。

健康まちづくり調査 しょうがいしゃ計画調査

私の暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない。

※「不便がない場合」⇒「あてはまる」 あなたの暮らしている地域は、日常の買い物に不便はありますか。

※「不便がある場合」⇒「あてはまる」

(3) - 3 飲食を楽しめる場所について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は37.7%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は7.4ポイント下回っている。

(3) - 4 公共交通機関について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は57.6%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は10.7ポイント下回っている。

(3) - 5 娯楽施設について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は16.9%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は0.9ポイント上回っている。

(3) - 6 身近な周りの人も楽しい気持ちについて

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は33.0%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は19.8ポイント下回っている。

(3) - 7 居場所について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は46.6%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は36.6ポイント下回っている。

(3) - 8 居場所について

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた『あてはまる』は45.3%となっている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、『あてはまる』は7.1ポイント上回っている。

(4) 幸福度について

どの程度幸せと感じていますかは、5点(20.3%)が2割で最も高く、8点(19.6%)が2割、7点(12.5%)が1割を超えて続いている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、幸福であると感じている人の割合は、比較的少ないことがうかがえる。

(5) 幸福度を考える際に重視したこと

幸福度を考える際に重要視したことは、健康状況(65.8%)が6割半ばで最も高く、家計の状況(所得・消費)(49.4%)がほぼ5割、家族関係(46.8%)が5割近くで続いている。

(6) 満足度について

生活している地域の暮らしの満足度は、5点(22.4%)が2割を超え最も高く、8点(19.0%)がほぼ2割、7点(17.7%)が2割近くで続いている。

健康まちづくり調査の結果と比較すると、満足であると感じている人の割合は比較的少ないことがうかがえる。

(7) 今後どのように暮らしたいか

今後どのように暮らしたいかは、「家族・親族と一緒に暮らしたい」(52.3%)が5割超で最も高く、「わからない」(18.6%)が2割近く、「ひとりで暮らしたい」(14.7%)が1割半ばで続いている。

性別で見ると、女性では「家族・親族と一緒に暮らしたい」(49.7%)が5割で最も高く、「ひとりで暮らしたい」(19.0%)がほぼ2割、「わからない」(17.3%)が2割近くで続いている。

男性では、「家族・親族と一緒に暮らしたい」(54.9%)が5割半ばで最も高く、「わからない」(19.9%)が2割、「ひとりで暮らしたい」(11.3%)が1割超で続いている。

(8) 災害時の対策について

災害時の対策は、「食料や水などの防災用品を用意している」(45.1%)が4割半ばで最も高く、「避難場所を確認している」(44.2%)が4割半ば、「家具に転倒防止の対策をしている」(26.9%)が3割近くで続いている。

(9) 現在の就労状況について

現在働いているかは、「働いていない」(57.6%)が6割近くで最も高く、「正規の職員・従業員として働いている」(12.4%)が1割超、「以前働いていたが、現在は働いていない」(11.1%)が1割超で続いている。

性別で見ると、女性では「働いていない」(62.3%)が6割超で最も高く、「以前働いていたが、現在は働いていない」(11.5%)が1割超、「正規の職員・従業員として働いている」(7.5%)が1割近くで続いている。

男性では、「働いていない」(53.9%)が5割超で最も高く、「正規の職員・従業員として働いている」(16.4%)が1割半ば、「以前働いていたが、現在は働いていない」(10.8%)がほぼ1割で続いている。

(10) 就労日数・就労時間について

(10) - 1 最近1ヵ月の間に働いた日数について

最近1ヵ月の間に働いた日数については、「16~20日」が42.3%で最も多く、次いで「21日以上」(25.9%)、「11~16日」(10.0%)の順となっている。

性別で見ると女性では16~20日(43.4%)が4割超えで最も高く、21日以上(16.9%)が2割近く、11~16日(10.8%)がほぼ1割で続いている。

男性では16~20日(40.2%)が4割で最も高く、21日以上(31.8%)が3割超え、11~16日(9.8%)が1割で続いている。

(10) - 2 最近1ヵ月の間に働いた1日当たりの就業時間について

最近1ヵ月の間に働いた1日当たりの終業時間については、「7時間以上、8時間未満」と「8時間以上」を合わせた『7時間以上』が50.9%で最も多く、次いで「6時間以上、7時間未満」(14.5%)、「5時間以上、6時間未満」(10.5%)の順となっている。

性別で見ると、女性では『7時間以上』(44.6%)が4割半ばで最も高く、「6時間以上、7時間未満」(15.7%)が1割半ば、「5時間以上、6時間未満」(12.0%)が1割超えで続いている。

男性では『7時間以上』(53.8%)が5割超え、「6時間以上、7時間未満」(13.6%)が1割超え、「5時間以上、6時間未満」(9.8%)が1割で続いている。

(11) 働くために必要なことについて

働くために必要なことは、「心身の健康状態の維持、向上」(82.3%)が8割超で最も高く、

「自分自身の意欲」(54.1%)が5割半ば、「体調を考慮した勤務時間、休憩、休暇などへの配慮」(43.2%)が4割超で続いている。

(12) 労働意欲について

今後働きたいと思っているかは、「いいえ」(63.3%)が6割超で、2割半ばの「はい」(25.2%)より38.1ポイント高い。

年代別でみると、「はい」は、10歳代以下(65.6%)が6割半ばで最も高く、20歳代(64.3%)が6割半ば、40歳代(64.3%)が6割半ばで続いている。

性別にみると、「はい」は、男性(28.0%)が3割近くで、2割超の女性(22.7%)より5.3ポイント高い。

(13) 働いていない理由について

現在、働いていない理由は、「高齢のため」(42.7%)が4割超で最も高く、「しょうがいや病気などのため」(39.8%)が4割、「体力的に不安があるため」(21.4%)が2割超で続いている。

(14) 通園・通学について

通園・通学をしているかは、「していない」(74%)が7割半ばで、1割半ばの「している」(14.5%)より59.5ポイント高い。

年代別でみると、「している」は、10歳代以下(95.9%)が9割半ばで最も高く、20歳代(10.2%)が1割、30歳代(7.7%)が1割近くで続いている。

性別にみると、「している」は、男性(19.6%)が2割で、1割近くの女性(8.7%)より10.9ポイント高い。

(15) 通園・通学をするうえで困っていることについて

通園・通学をするうえで困っていることは、「特にない」(62.5%)が6割超で最も高く、「通園・就学先が遠い」(20.5%)がほぼ2割、「通園・通学の付き添いの確保が難しい」(11.6%)が1割超で続いている。

(16) フルインクルーシブ教育を進めるために必要な事について

国立市でフルインクルーシブ教育を進めるために必要なことは、「バリアフリー等の環境整備」(32.7%)が3割超で最も高く、「補助員等支援スタッフの増員」(27.3%)が3割近く、「地域の理解」(25.8%)が2割半ばで続いている。

(17) 参加した余暇活動や社会参加について

1年間に参加した余暇活動や社会参加は、「活動していない」(37.6%)が4割近くで最も高

く、「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞」(33.5%)が3割超、「スポーツやレジャーなどへの参加」(20.8%)がほぼ2割で続いている。

(18) 余暇活動や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることについて
余暇活動や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることは、「特にない」(34.9%)が3割半ばで最も高く、「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」(16.1%)が1割半ば、「経済的に余裕がない」(14.1%)が1割半ばで続いている。

(19) 地域で安心して暮らしていくために重要な事について
地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「しょうがいや病気に対する理解の促進」(34.9%)が3割半ばで最も高く、「経済的支援の充実」(28.4%)が3割近く、「医療やリハビリテーションの充実」(25.3%)が2割半ばで続いている。

(20) 生活環境について

(20) - 1 困ったときに相談できる人が身近にいるかについて

「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を併せた『あてはまる』(41.3%)が4割超で、「全くあてはまらない」と「あまりあてはまらない」を併せた『あてはまらない』(29.0%)より12.3ポイント高い。

年代別でみると、『あてはまる』は、40歳代(52.5%)が5割超で最も高く、30歳代(48.1%)が5割近く、80歳代以上(44.5%)が4割半ばで続いている。

性別でみると、『あてはまる』は、女性(40.8%)がほぼ4割、男性(41.8%)が4割超で、男女間で大きな差はみられない。

(20) - 2 どんな人の意見でも受け入れる雰囲気があるかについて

「全くあてはまらない」と「あまりあてはまらない」を併せた『あてはまらない』(24.8%)が2割半ば、「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」を併せた『あてはまる』(20.5%)より5.6ポイント高い。

年代別でみると、『あてはまる』は、30歳代(25.0%)が2割半ばで最も高く、40歳代(25.0%)が2割半ば、80歳代以上(23.1%)が2割超で続いている。

性別でみると、『あてはまる』は、男性(21.9%)が2割超、女性(19.8%)が2割で、男女間で大きな差はみられない。

(21) 福祉関連の情報の入手方法について

福祉関連の情報はどこから入手しているかは、「東京都や国立市の広報紙」(64.9%)が6割半ばで最も高く、「インターネット・SNS」(26.5%)が3割近く、「テレビ・ラジオ・新聞」(21.3%)が2割超で続いている。

(22) 国立市から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることについて

国立市から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることは、「特に困ることはない」(58.4%)が6割近くで最も高く、「パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない」(17.4%)が2割近く、「広報などの内容を理解できない」(10.5%)がほぼ1割で続いている。

(23) 国立市以外から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることについて

国立市以外から生活に必要な情報を集めようとするときに困ることは、「特に困ることはない」(58.9%)が6割近くで最も高く、「パソコンや携帯電話などの情報収集機器を使うことができない」(18.5%)が2割近く、「支援者が近くにいない」(9.3%)がほぼ1割で続いている。

(24) 不当な差別を受けた経験について

しょうがいや病気を理由に不当な差別を受けたと感じたことは、「ない」(82.4%)が8割超で、1割超のある(12.3%)より70.1ポイント高い。

年代別でみると、「ある」は、20歳代(24.5%)が2割半ばで最も高く、10歳代以下(19.6%)が2割、30歳代(19.2%)がほぼ2割で続いている。

性別でみると、「ある」は、男性(11.8%)、女性(11.7%)ともに1割超で、男女間でほとんど差はみられない。

(25) どのような時に差別を受けたと感じるかについて

どのような時に差別を受けたと感じたかは、「公共施設や交通機関を利用する時」(35.8%)が3割半ばで最も高く、「情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき」(26.3%)が2割半ば、「働きたいとき、働いているとき」(22.1%)が2割超で続いている。

(26) 差別に関する相談経験について

差別を受けた時に相談をしたことがあるかは、「ない」(65.8%)が6割半ばで、ほぼ1割の「ある」(9.4%)より56.4ポイント高い。

年代別でみると、「ある」は、30歳代(21.2%)が2割超で最も高く、20歳代(18.4%)が2割近く、50歳代(17.2%)が2割近くで続いている。

性別でみると、「ある」は、男性(9.3%)がほぼ1割、女性(9.2%)がほぼ1割で、男女間で大きな差はみられない。

(27) 相談場所について

どこに相談したかは、家族(61.6%)が6割超で最も高く、友人(27.4%)が3割近く、そ

の他（26.0%）が2割半ばで続いている。

Ⅲ 調査票

国立市しょうがいしゃ計画策定に係る実態調査報告書
令和6年3月

- 発行 国立市健康福祉部しょうがいしゃ支援課
東京都国立市富士見台2丁目47番地の1
電話 042（576）2121（直通）
- 調査実施 株式会社ケー・デー・シー
東京都港区虎ノ門4丁目2番地12号
電話 03（5733）5111（代表）